

## おおふなと市民ミーティング 第3回グループワークまとめ <<1グループ>>

### 男女共同参画を進めるためのアクションプラン

【地域・学校】（一部行政）	【職場】（一部行政）	【家庭】
<p>●言葉から変えていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団、女子マネージャーなど。「女子マネ」は、女子がサポートする前提で言葉が作られているため。</li> <li>・「女子力UP」や「ちゃん」「くん」呼び、家庭内でも「旦那」「嫁」「奥さん」などをやめて、「パートナー」という呼び方へ見直していく。</li> <li>・地域の「婦人部」「母親委員会」という言葉も見直していく。</li> <li>・学校行事などにおいて、「ママショップ」などの名称で生徒の母親が活動する場があるが、名称を見直していく。</li> <li>・枕詞として「偏見はないのですが…」や「悪気はないが…」といった言葉は、逆に、偏見や悪気があるかのような言い出しになると思われる。</li> </ul> <p>●行政にお願い！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が、LGBTQや男女共同参画の啓発活動に補助金を出して、市民活動などをバックアップしていく。</li> <li>・身分証明書類に性別を書かない。もしくは、裏面に書くことでプライバシーを尊重できるような手続きや制度にしていく。</li> <li>・LGBT理解増進法などの見直しや差別禁止法を提案する。夫婦別姓の制度を取り入れるなどの取組が必要。</li> </ul> <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前と外見のイメージが一致しにくい人への配慮として、病院などにおいて名前を大声で呼ぶのをやめる。また、通称名を社会的に使いやすくしていく。</li> <li>・選挙活動が男性社会の仕組みのままなので、女性の政治参加促進のために、まずは女性の選挙参加への理解とサポートをもっと手厚くする。</li> <li>・目的が個人の尊重ではない趣旨となっている結婚応援セミナーの廃止や、広報誌での結婚報告をやめる。</li> <li>・コンプレックス広告や性別役割を強化するようなCMの廃止や見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場では女性管理職の割合を上げる。そのために、割合に応じた補助金制度、補助制度を行政が行う。</li> <li>・社内研修、もしくは、商工会議所での男女共同参画にかかる企業研修などを実施する。</li> <li>・ハラスメントに対して、しっかりと罰が与えられるようにする。</li> <li>・働きやすさのために、事務服などの制服がある場合は、ジェンダーにとらわれないような制服の採用や、選択できるように数種類導入する。もしくは撤廃する。</li> <li>・長時間労働や残業をなくす、育休の取得率を上げる、育休を必ず取らせるように配慮する。</li> <li>・ダイバーシティスコア、ダイバーシティを図っていく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「ダイバーシティスコア」とは、ダイバーシティの取組がどの程度進んでいるかを見える化するもの。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「ダイバーシティ」とは、LGBTQ や障がい者、外国人の雇用など、多様性を意味する言葉。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※「コンプレックス広告」とは、エステや脱毛、美白など、コンプレックスに感じることを過剰にあおる広告のこと。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事など、みんなができることをやるような取組をする。</li> <li>・男（女）だからと区別をせずに家事手伝いをしてもらう。</li> <li>・子どもの性別発表（ジェンダーリベール）を盛大に祝うことはやめた方がいいと思う。</li> </ul>



おおふなと市民ミーティング 第3回グループワークまとめ <2グループ>

男女共同参画を進めるためのアクションプラン

【地域・学校】（一部行政）

【職場】

【家庭】

全てにおいて、やはり「学び」と「話し合いの場」を作り、継続していくこと、そしてそれからの実践をしていくことが必要。

●地域・学校等

- ・市民ミーティングのような話し合いの場を定期的で開催して、多くの人に来てもらい、色々な問題があることや、学びに気づいてもらうことが大切。
- ・様々なイベントを開催して、みんなに理解してもらい、楽しく学べる場を設ける。
- ・なじみのあるタレントが、男女共同参画に関わることで、子どもたちも親も、地域の方々も喜んで参加して勉強できるのではないかと。男女共同参画は大切だよと、誰もが知る有名な人が話すことで知るきっかけができ、興味を持って取組に参加する人が増えていくと思う。
- ・低学年の頃からの学びが必要。学校でも楽しく子どもが男女共同参画を学ぶために、タレントなどを呼んで、周知や認知を図り、理解を深めるイベントを開催する。
- ・小さい頃から、男女共同参画について、学べるようなイベントを行っていただければいい。
- ・男女共同参画について、カルタや双六などのような遊び道具を作成し、学校で話し合いや遊びながら学べる仕組みを作っていく。
- ・公民館活動の中でも、女性の発言に耳を傾ける機会が少ないので、そういった機会を設けて、公民館組織の役割自体を変えるように働きかけていく。
- ・公民館の役割自体にも変化を。

●行政

- ・行政などでも、男性だけではなく、女性もどんどん参加してもらうような働きかけをしていく。
- ・ネットワークづくりが重要
- ・個々の活動や「男女共同参画サポーターの会」など、活動している人や団体があるが、バラバラに活動するのではなく、ネットワークとして繋がり、みんなで一緒に1つの目標に向かって行けたらいいと思う。

- ・職場においても、LGBTQや男女共同参画について、話し合いと学びの場が必要。
- ・企業のトップから考えを変えていく視点が大切。
- ・女性の働き方や、管理職を増やすことを規定に盛り込んでもらうなど、実践的な取組が必要。
- ・取組が先進的な企業から話しを伺う機会をつくる。

- ・「家庭で話し合う取組」ができると、学びや話し合いにより互いを尊重し、みんなで一緒に家事や育児をしたり、楽しく男女共同参画について実践したりしていただければいいと思う。

# アクションプランを考えよう (地域(学校教育))

市民ワークショップ  
の活用  
LGBTQ等  
への学びたい。

学び

地域小中の  
女性活動的  
に参加の機会  
を  
楽しいイベント  
を  
理解を深める  
ために。

イベント  
活用

女性発言に  
身代わり機会  
を設ける。  
公民館の組織  
論の役割を  
変える。  
公民館組織の  
役割について、行政  
と連携する

地域・公民館

ネットワーキング  
の活用  
グループ

市の施策の中に  
取り込む  
毎週ワークショップ

行政主導

ワークショップ  
で、理解を  
深めるイベント  
を

教育機関

幼少期の頃から  
異性同僚の  
関係性について、学び  
たい。

昔で男女同  
等な関係  
が築かれて  
いる学校(学校)の  
先生と  
生徒の  
関係

## 職場

LGBTQへの  
学び  
男女共同参画  
への定期的  
研修(勉強会)

職場  
学び

企業への  
若年層への  
女性管理職  
の増加  
管理職の女性  
増加のために  
研修を受ける

実践

何と話し合  
う場所が必要  
自由に意見を  
話し合える  
機会を

先進的企業  
の事例を  
LGBTQ等  
への  
話し合い

## <2班> 家庭

LGBTQ等  
への学び

家族と  
一緒に  
家事をする

家庭の役割  
の話し合い  
を  
何と話し合  
えるか

学び  
実践

話し合い

## 質 疑 応 答

### 質問①（2班への質問）

「学校」の分野で、「タレントを呼んで理解を深めるイベント」とある。いろんな方が参加しやすいので、いいなと思う一方で、誰をタレントとして呼ぶのにふさわしいのかを考えると、ぱっと思い浮かばない。

例えば、LGBTQなどの分野で言うと、マツコデラックスさんなどを思い浮かべるが、あの方はメディアが生み出した固定的なとてもステレオタイプを強化するLGBTQのあり方であるように考えられるので、どんな人を想定して、教育の場に合うタレントとして誰を選ぶのかなと思って気になった。

また、市民が、市民に向けて勉強の場を作るといった意見については、なかなか変わらないのではないかとも思った。

### 回答①（1班からの回答）

タレントについては、特定の誰かを想定しておらず、市民に「あーこの人か」と思ってもらえるような、一般的に皆が気にかけて、影響力のある方に来てもらい、お話するのがいいという意見だった。話し合いの中では、人物の特定にまでは話にならなかったため、大まかなアイデアとして出されたもの。

様々な方法がある中で、市民が市民レベルで広げるのも「あり」だと思っている。色んな形で取組ながら、それとはまた別に、全く興味のない人でも、あの方が来るならば参加してみようと思う場を作ってもいいのではないかと考える。

複合的に色々ある中の1つとして、影響力のある方の発言を、市民に投げかけてみるというのも1つの手ではないかという意見である。

### 質問②（1班への質問）

「結婚応援セミナーの廃止」という考えについて、その理由を教えてください。結婚支援に関わる人への参考になると思うので、どうして結婚支援をしてはいけないのかを伺う。

### 回答②（2班からの回答）

この意見については、実際に募集していたセミナーが「結婚の相談と、結婚をさせたい親御さんの相談を受ける」という内容のものであった。

この内容について疑問を感じたところが1点。それと、結婚はそれぞれ個人の選択であるため、親や他者がこうしなければならないと考えるのは、押し付けのような動きに結びついていく可能性がなきにしもあらず、と考えた点から出した意見である。

また、派生した考えによるものだが、広報誌や新聞の慶弔欄などに婚姻した人について記載されている。男性と女性で分かれて氏名等が掲載されているが、男女に分類されたくないとする“その他のLGBTQの人たち”に関してはどうなのだろうかという疑問を抱えている。

### 回答②に係る補足意見

実際のセミナーは、個人の意思で結婚したい人たちが結婚相談所に行くことと、結婚を応援したい親が自分の子どもがどうしたら結婚できるようになるのかを相談する、という内容のものであった。この内容では、子ども自身の選択を尊重できていないのではないかという意見であった。

個々の結婚しない・できない理由、背景を担保した企画なのであればよいかもかもしれないが、そういう表記・表現がなされていなかったチラシであったため、少し問題があると考えた意見である。